



**古川地区遊技業組合
(宮城県遊技業協同組合)
「子どもの未来のための
大崎市内小学生全員への
図書カード寄贈」事業**



古川地区遊技業組合
組合長
山野英雄さん

**地元の子どもたちのために
積み立てた基金を
活用して
図書カードを寄贈**

**大震災で親を失った子どもたちに
NPO法人を通じて学資資金を支援**

宮城県古川地区にある14ホールで構成されている古川地区遊技業組合では、大崎東部地区防犯協会連合会の活動資金として、2020年に20万円、2019年以前は10年以上にわたり毎年30万円を寄付するなど、地域の安全・安心を守る活動に寄与するための貢献を続けてきた。また、現在、同組合の組合長のホール（あーばん三本木店）では、地元の三本木小学校の新入生児童全員に対し、防犯ブザーの寄付を続けている。

2011年に発生した東日本大震災により、同組合のある宮城県大崎市も激しい揺れに伴う甚大な被害に見舞われたが、地域の復旧・復興を支えるための社会貢献活動として、同組合では2011年から2016年までの間、震災により親を失った震災孤児を支援することを目的に設立された団体であるNPO法人「東日本大震災子ども未来基金」に対して、毎年50万円の寄付を続けてきた。

東日本大震災子ども未来基金は、仙台市に拠点を置き、震災によって親を亡くした子どもたちの学資支援を中心に活動を行ってきたが、2017年度からは愛知県豊橋市の忠内政恵さんと滋賀県草津市の三上せきさんが同基金に委ねられた遺産をもとに「忠内政恵・三上せき記念基金」を設け、その資金から、東日本大震災で被災した地域の子どもの心や体をケアする運動や活動をしている団体などが主導するプログラムを助成している。



大崎市内の全小学校に図書カードを寄贈



古川第五小学校で行われた図書カードの寄贈式

**おおさき子ども未来基金を積み立て
地元の全小学校に図書カードを寄贈**

左記のように支援する子どもたちが高校を卒業するまでの資金に目途が付き、学資支援事業についての寄付が終了したため、同組合ではその後、「おおさき子ども未来基金」の名目で組合費の一部を積み立てていた。

同組合ではその基金を活用し、さらに組合員ホールの募金箱に寄せられた遊技客からの寄付や店内で回収したプルタブなどを換金したものを合わせ、地元の子どもの未来のために役立ててほしいと、大崎市教育委員会に対して図書カード75万円分を寄贈することにした。

この図書カードは大崎市教育委員会を通じ、大崎市内にある全小学校25校（児童6,450人）に配られた。今年1月23日、古川第五小学校の校長室で行われた寄贈式には、組合員ホールの経営関係者11名と、市教育委員会職員、岡文校長らが出席。岡校長が各校を代表して、山野組合長から図書カードを受け取った。

寄贈にあたって山野組合長は、「子どもたちの未来のために使ってほしい。子どもたちに、ぜひ多くの本を読んでほしい」と要望したのに対し、同席した大崎市教育部の佐藤俊夫部長からは、「大崎市では子ども読書活動推進計画を進めており、このような具体的支援は本当に助かる」との感謝の言葉が告げられた。また、岡校長からは、「本は心の栄養。新しい本は子どもたちが読書をするよいきっかけになると思う。うれしい限り」という話があった。

子どもたちの活字離れがいわれて久しいが、一度面白い本に出会うことで生涯続く読書習慣が身につくことがあるので、その契機となると期待される。なお、この寄贈式の模様は地元紙の『河北新報』や『大崎タイムス』に掲載された。